書　評

『小学館の図鑑 NEO［新版］水の生物　DVD つき』

白山義久・窪寺恒己・久保田信・齋藤寛・駒井智幸・長谷川和範・西川輝昭・藤田敏彦・矢吹彬憲・土田真二・加藤哲哉　監修 ｜ 著/文

出版社　：小学館
出版日　：2019 年 6 月 19 日
ISBN　：978-4-0921-7307-1
価格　：2,000 円（税別）
URL　：https://www.shogakukan.co.jp/books/09217307

白鳥 峻志
Takashi SHIRATORI

海洋研究開発機構 深海生物多様性研究グループ
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

小学館の図鑑 NEO は子供向けの人気図鑑シリーズである．その中の 1 つ「水の生物」が今年の 6 月に 14 年振りに改訂された．本書では海水や淡水に生息する生物のうち，原生生物と無脊椎動物約 1,000 種が分類群ごとに美麗な写真とわかりやすい解説によって紹介されている．なお水棲の脊椎動物については，同シリーズの「魚」，「両生類・は虫類」，「動物」等にまとめられている．本書は 3 歳から小学校高学年以上を対象としているが，写真や解説とともにほぼすべてのページに各生物の体の構造や生態についてのコラムが配置されており，大人にとっても興味深い内容となっている．本書に書かれている解説は知らないことばかりで，個人的に非常に楽しく読むことができたが，一方で自身の水棲生物全般についての知識の無さを痛感した．また特集として，眺めているだけでもお腹が減ってくるような，水の生物を利用した世界各地の料理の紹介や，温暖化による海水面の上昇，海洋酸性化やプラスチックゴミといった環境問題についてもページが割かれている．様々な分類群の生物が紹介されている都合上，本書の中で原生生物について書かれているページ数は残念ながらあまり多くはない．しかし，矢吹彬憲博士（海洋研究開発機構）をはじめとした多くの原生生物研究者による美しい写真と，要点をおさえた解説が密に盛り込まれているため，ボリューム不足はあまり感じられない．また原生生物学に携わる者として嬉しいことに，本書では原生生物の分類や系統，進化についての最新の知見が紹介されている．例えば巻末の特集では，ミトコンドリアや葉緑体の細胞内共生説について解説されていたり，系統樹では名前こそ示されていないものの，SAR やハプチスタといった系統が再現されている．さらに本書によって原生生物に興味を持った子供のために，原生生物を観察するためのプレパラートの作成方法や，光学顕微鏡の使い方も紹介されている．本書は生き物に興味がある子供たちが，原生生物という存在を知るきっかけとして適した図鑑であるとともに，水棲生物について広く知っておきたいという大人にも是非手にとって欲しい一冊である．

Tel: 046-867-9524; Fax: 046-867-9525
E-mail: tshiratori@jamstec.go.jp
Received: 6 Sep 2019